



楽屋インタビュー

1 本番を終えて、どんな気分ですか？

- ・最高にハイになっています。
- ・上演を終えてホッとしました。

2 本番中ハプニング

- ・ミカの新登場シーンでドアを通り過ぎてしまい、数歩戻ってからドアを開けた。
- ・タイムオーバー寸前でした。

3 思い出に残った台詞

「距離を縮めれば温かさを感じられるけど、同時に相手の棘に傷ついたり、逆に自分の棘で相手を傷つけたりしてしまう。でも、大切なのは棘ごと受け入れるってことじゃないかな？」

4 大会期間中、部活内で流行ったワード・行為

基礎練の時にプランクをするのですが、部長がプランクのことをクランプと言ってしまい、そこから基礎練のたびに部長が部員にクランプのネタをこすられています。毎日大変です……

5 見てくれたお客さんに向けて

私たちの上演はいかがでしたか？ 星の王子様をまだ読んでいない方は、ぜひ読んでみてください！ 本当にありがとうございました。



お客さんインタビュー

●感情を体や舞台効果(照明、音響)で大きく表現しており、シリアスな場面でも、感情の変化を認識しやすく、物語への理解度が深まった。

●舞台装置の作りこみが凄く、照明による領域の分断(廊下と教室)の発想には感嘆した。

●図書室という第三の居場所において各人物のオモテには表れない一面の演技表現が共感できた。

運営委員が観た！
この劇の感想

●役者一人一人の個性が明確で良かった。図書室の作りがリアルで、本当に図書室にいるような気がした。図書室の電気の切り替えの動作と照明の変化が合っていて、チームワークの良さを感じた。最初は読書感想文を書くことを嫌がっていたミカが、他の登場人物との関わりを通して最後は書くまでの心情の変化の描き方が丁寧で素晴らしい舞台だった。 担当：松本(尚綱)

●照明、音響、舞台技術、演技のどれも完成度が高く、最後まで引き込まれました。特に音響による場面転換が印象的で、次の展開が楽しみでした。声も聞き取りやすく、登場人物の感情の変化が分かりやすかったです。性格が正反対なマヒロとミカの対比もはっきりしていて、全体として見応えのある舞台で、心から楽しむことができました。 担当：古郡(宮城学院)